

地を継ぐ

計画地は沖繩戦跡国定公園及び海蝕崖地帯に存する。約10キロメートルにも連なるこの地形は、自然の力強さと、時間・歴史の記憶をも宿している。この地に建つ2つの建築は、連続する地形の秩序に倣い、この地の形と記憶を継いで大地を形成する。



一 休憩所一

- 面積 29.45㎡
- 構造 RCラーメン構造
- 仕上げ (主要構造部) RC打ち放しコンクリート / ビシャン仕上げ / 浸透強化型吸水劣化防止材【ハイパーロック】塗布 (屋根植栽部) RC打ち放しコンクリート / ゴムアスファルト塗膜防水 / 保護モルタル押え / 耐根シート張り / 排水軽石敷設の上、客土 ※客土は敷地掘削時などに出る残土を使用する。
- 配置計画 既存東屋の位置に再建することで、新たな掘削工事や、既存解体後の土木工事を減らし、土石の敷地内処理に努めます。



休憩所全景

二 トイレ一

- 面積 20.95㎡
- 構造 RC壁式構造
- 仕上げ (主要構造部) RC打ち放しコンクリート / ビシャン仕上げ / 浸透強化型吸水劣化防止材【ハイパーロック】塗布 (屋根植栽部) RC打ち放しコンクリート / ゴムアスファルト塗膜防水 / 保護モルタル押え / 耐根シート張り / 排水軽石敷設の上、客土 ※客土は敷地掘削時などに出る残土を使用する。
- 配置計画 敷地後方に配置することで、海蝕崖地の景観に配慮します。また、工事期間中の利用者の安全と利便性を確保します。



トイレ全景



休憩所眺望

躯体部を中央にまとめ、海岸線への眺望を遮らない構造とします。



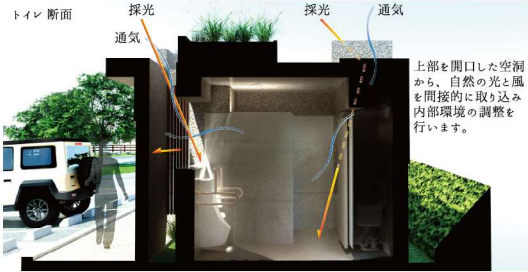
休憩所通路

休憩所の後方に設置したスロープ通路は、休憩所へのアプローチと、海岸へのアプローチの兼用通路とします。



トイレ手洗い

男子トイレと女子トイレの対面した手洗い場の間に、目隠しの役割を持った石を配置します。石のすき間からは、光と風を内部に取り込みます。



トイレ断面

上部を開いた空洞から、自然の光と風を間接的に取り込み内部環境の調整を行います。

海蝕地と建築が連続的に繋がり、一体的な自然環境をつくりだす。草木が寄り添い、細かな影を表層に纏い自然の造形に近づいていく。

海岸や海蝕崖地から、外構に配置した岩石と建築物が連続的な風景としてつながっていきます。また、屋根に設けた浅い植栽帯には、敷地内に自生する草木が種をつり継々とともに、より周辺環境へ順応して一体的な大地へと変化していきます。

既存トイレ跡地

既存トイレ解体後、移動販売車などへ場所提供により、利便性の高い園地整備を行う

多目的トイレ

男子トイレ

足洗い場

女子トイレ

工事の際に採掘される岩石を外構に用いることで、隣接する海蝕地帯と一体的な景観秩序を保ち、この地のものが他へ流出するのを防ぎます。



コンセプトキーワード

- 自然の連続**
周辺環境と連続的な建築・外構の意匠とすることで、計画地一帯の景観秩序を保ち、自然の造形美を尊重した計画とします。
- 地質の保存**
基礎工事などの際に採掘される岩石を外構の一部として利用することで、他の場所へ排出・廃棄せずに、その地のモノはその地で活用する計画とします。
- 経年順応**
建築物の屋根に設けた植栽帯には、周辺の草木の種が風に運ばれて根付き、自然を享受する建築は、経年劣化ではなく、経年で自然に順応していきます。

配置計画 (利用者の安全性・利便性を確保する工事計画)

- 1. 駐車場と車道整備**
 - ・現況砂利敷き部分を転圧の上、浸透性アスファルト舗装工事
※既存駐車場と明確に区別出来るため、利用者の安全性を確保できます。
 - ・現況トイレ前の植栽帯を一部撤去し、車道整備(浄化槽配管設置を含む)
※整備完了した新規駐車場に一部車道を確保することで、工事中でも利用者の車両通行路を確保できます。
- 2. 新規トイレ 新築工事**
 - ・駐車場及び、既存トイレを使用維持しながら、敷地奥にてトイレの新築工事
※園地利用部分と工事部分を明確にゾーニング出来るため、利用者の安全性が確保できます。建物と駐車場の間には幅1.3mの通路を確保することで、仮囲いや工事足場が駐車場に干渉しないよう配慮します。
- 3. 既存トイレ 解体工事及び跡地整備**
 - ・トイレ新築工事完了後、既存トイレ・既存浄化槽の解体工事
※駐車場と新築トイレの動線は新たに整備されているため、既存トイレ部分を安全に解体工事を行うことができます。
 - ・既存トイレ解体後、砂利敷き転圧の上、浸透性アスファルト舗装工事
※トイレ跡地を整備し、浄化槽メンテナンス車両の駐車場として確保する。夏場などの園地利用率が多い時期には、かき氷屋など移動販売車の場所として提供し、家族連れが利用しやすい園地の整備ができます。
- 4. 既存休憩所 解体工事/新規休憩所 新築工事**
 - ・既存休憩所の上屋を解体後、土間を一部残して新規休憩所の新築工事
※新規休憩所の躯体位置を既存休憩所の躯体位置からベテラス事で、解体工事と新たな掘削工事を最小限に抑えることが出来ます。
 - ※建物位置を変えずに計画することで、解体工事前から新築工事までを一貫して行うことができます。工事範囲をコンパクトにすることで、工事中の管理が行いやすく、現状回復部分も最小限に抑え、緑地帯への負荷を軽減します。

